

# 琉球大学学術リポジトリ

## 1960年1月の安保条約改定時の朝鮮半島有事の際の 戦闘作戦行動に関する「密約」に係る調査関連文書 No.5

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語:<br>出版者:<br>公開日: 2019-02-15<br>キーワード (Ja): 朝鮮半島有事, ロジャース国務長官<br>キーワード (En):<br>作成者: -<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43886">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43886</a>             |

177

極秘

極秘  
#378 2-2

大塚

米

米

米

米

米

極秘

8月7日 スチーフニ公使と会談の件

44.8.7 米局長

公使 - (日本側では) 核の問題は片付いていない

と仰るが向もあるところの 無条件で

いっかといえ、これを理解できない。半側は

ペーパーには北緯のことと言はして、中共に

対しても戦賠償に及らざる 戦術核の条件

を半側は完全視している。

本館 - 常識的には 沖縄の戦術核の条件は

先が北緯と云うことで、それが半側のペーパー

に先が北緯と云うのが奇案である。戦術核

の中共に対する条件は常識的には 北緯

解があり、況やソ連に先が北緯

側が懸念される。

公使 - 戦術核は 局地的使用が主であること

より互破に迫ることは、専ら戦術核と異なる特

性あり。又中共は北緯は米大陸から渡り

するに、ソ連に対する経済を認め、先渡

あり。何れにせよ中共との関係では現在

より何年か先により重要になつて来る

と云うところから問題を捉つかしにする。

本館 - 今朝の発表の喜信調査に及らざる

十年先は核を量とするもの、非とするもの

の意見もが、これと同意と云うこと

ある。今日の核の作業は、いわば一種

の「存在」のよう、なものである。然し

事件に因りては、政府の間の交渉以外には

何とも申上げられぬ。

公使 - 大塚氏が 沖縄から核撤去を決定

するといふ。これは他の条件の核が主である

撤去を許すという判断がなし得る協会の  
 あり得る。 大軍持込はついでに他の国保不  
 同の了解は、あてはまるものありやを、米軍  
 政府と照会する。敵側の戦時体制準備  
 の判断から、米軍に核兵器の所持を  
 必要とするところから、大軍の協会の問題  
 は同様のものがある。他方、核の問題が  
 ないから、これは大層にもよる所解を  
 認める。  
 米軍一側承知の如く、核は要しないといふ  
 議論を挑む事は、米軍とには通  
 達時に核が残つては困るといふこと  
 がある。  
 以上、自衛隊の軍事協会の問題。米側は  
 域内  
 諸島の防衛の義務を果せば、米軍は

うぬといふ。日米例共同声明は「合衆国の  
 負っている国際義務の効果を遂行し得る  
 得べし」といふこと、両者の意味に相  
 違ひや。  
 米軍一側方の考方は、日米両国は核兵器の  
 保有に共通の認識を持っている。故に  
 この共通の認識に基づき、米軍が運  
 送する以上、米軍の行動が、米軍に必要となつ  
 て軍事協会の協会は、米軍の考も核  
 兵器の保有に必要である。日米は  
 核兵器の保有の、米軍に手を下す  
 こと、米軍の核兵器協会は別として、米軍  
 側の軍事行動に、米軍の意見を有し得る  
 こと、米軍の協会は、米軍の協会は、米軍  
 日米例の考方は、米軍の協会の取扱は、米軍

か王族系譜の違いを阻止せしめることはな  
い。という事である。  
公使 - 朝鮮の扱いはよいとし、距離が遠  
く、このため、日本、米国のいかなる「機嫌」も  
「機嫌」により、政府は、譲とすは、な、い、つ、て、は、な  
い、か、と、い、う、ク、レ、ン、ト、の、問、題、は、ど、う、か、こ  
の、果、が、最、も、問、題、に、あ、る。  
奉天 - これは、相互行動の問題、相互政府  
の、指、導、力、の、問、題、に、あ、る。大、陸、或、は、總、理、と  
治、令、は、い、く、つ、ま、が、適、当、な、あ、る。  
公使 - 總理と口説く、若、友、会、談、の、記、録、に、  
これは、總理は、朝鮮と台湾を同様に扱  
い、て、極、め、て、は、つ、ま、り、見、解、を、述、べ、ら、れ、て、い、る。  
その通りならば、甚、だ、有、益、に、  
奉天 - 朝鮮と台湾を、表、向、文、は、つ、ま、り、同

- 12 報、3 - 2 は、ま、つ、か、し、い、と、思、う、と、い、う。  
公使 - 總理は、若、し、~~朝鮮~~ 或、は、台、湾、が、  
向、い、て、来、た、ら、は、つ、ま、り、條、約、に、よ、り、と、さ、す、と、さ、す、  
と、決、ま、る、と、し、解、する、か、若、し、備、わ、れ、る  
前、に、は、米、國、側、か、ら、韓、台、雙、方、に、<sup>対、し</sup>、通、達、後  
も、安、全、保、障、に、支、障、を、い、よ、う、と、す、る、事、を、保、障  
し、て、裁、け、る、に、あ、る。米、國、側、と、い、は、韓、台、西  
國、の、間、に、並、び、に、米、國、國、内、の、約、に、大、い、に  
助、か、る。  
奉天 - 印、度、通、達、は、日、米、均、の、問、題、と、の、連、係、  
を、と、り、こ、え、な、い、と、し、解、する、の、道、に、あ、る、か、  
公使の、返、は、Take note、す、る。  
公使 - 總理の、一、方、の、答、え、に、は、台、湾、を、含  
め、る、視、点、に、は、行、か、な、い、か、韓、台、と、同、部、に、並、び、  
こ、は、國、際、と、い、は、な、い、か、台、湾、地、域、の、安、全、は、日、米、

の安全と至大の利益ありとの認識。或は「国際義務」の正に米軍基地も含まれるとが、何れかの方法で台湾の cover されることが非常に稀である。

戦間外交活動は「周辺地域」にも軍事協力を条件に行い得るもの。了解に乏しい中

本元 - 之を始けたものはない。尤も「遠く」には「同盟」が生まれると云うことである。

公使 - 安南 南緯を切離して解する。これもその趣意と了解する。

1960年2月、南緯参事(中)及び島嶼参事(参事)に対し、半同盟国として内閣の決定を SEATO 地域に、米軍基地の「存在」を認めると政府は復讐せざるを得ない

与了解を取った記録がある。それは「標準」意義の "primarily" によっている。但し米国会ではその意味なくして「清く」の意。この意味で米軍第4師団 First Southeast Area は「標準」に入るとか、この点を蓋し得ることはない。

本元 - 本元には標準記憶がある。何れにせよその点は固い。

公使 - 朝鮮に於いては「共同の」EC

式の ambiguous case の同盟が認められる。True element をどう処理したか

本元 - 標準意義に於ける True element の件は、多少と認められる。

米軍に付着する解決はなし。

「パラグラフ」の details は軍事協力の内

の問題が広く 運送協定が 処理を要する  
 此後と了解して 得るまで  
 公使 - 然り、 併しは 多量財政問題、VOA  
 存続問題、 米国の 第三國人雇用の 地位協  
 定上の 扱い、 地位協定上の 諸問題 等の 所し  
 本館 - 第2103537 の equipment 及び 乗船  
 は 核兵器の ことと 了解す  
 公使 - 然り  
 本館 - 第3103537 の 去後 P47 の 文脈に  
 12月1日、 1960年10月 朝鮮に 限る こと 所し 此後  
 果て あり、 然し non-combat operations 12月  
 1日 所し あり、 此の 地位 及び する 意味は  
 何れと 考へし。  
 公使 - 併し 1960年 7月 3日 所し あり、 此後  
 公使 - 併し 何故 2112 31 用 12 条 5 項 1 句

ついで 併し 2112 31  
 本館 - 第4103537 の Southeast Asia 12月  
 1日 併し あり、 併し 第2文の 意味  
 が 不 明 確 である  
 公使 - 第2文 armed attack on US forces は  
 ワシントンに あり、 併し 使用 提案 所し あり、  
 併し あり、 此の 使用 2112 31 併し あり  
 併し あり、 米軍 主 義 obligation 2112 31  
 併し あり、 併し 併し あり、 併し あり  
 併し あり、 併し あり、 併し あり  
 本館 - 第3 第4 103537 の agreed は  
 prior consent の 意味に 見受け あり、 併し  
 何  
 公使 - 併し あり  
 本館 - 併し あり、 併し あり、 併し あり、 併し あり

このようにして、事前の同意をとり、  
最大限の表現まで、その意を用意はあ  
る。

公衆 - 上記の点、short of prior commit-  
ment で、どういった表現があり得るか、  
その方向性を考えてみる。

主として、この点、今後の議論は、  
手前、大抵の懸隔がある、どういった  
進め方か。

本質 - 結局、愛国心が、  
水に争は、核の争、  
を、核の争、  
multilateral を考へ、  
これは、  
進行した。